

## ➤ 小児外科

子どもは大人と比べて体が小さくて、臓器も脆弱で、身体的、精神的にも発達段階にあり、年齢によって対応は大きく異なります。子どもについての専門的な知識を持った外科医、それが小児外科医であり、将来をになうこども達を、誇りと情熱をもって治療しています。小児外科医は、一般外科、成人消化器外科のトレーニングを受け外科専門医を取得し、その後小児外科の専門的なトレーニングを受けて、専門医資格を取得しています。

小児外科とは、いわゆる「小児一般外科」であり、当科では脳、心臓、大血管、整形外科の病気を除く、こどもの一般外科の病気の診療を行っております。つまり、小児の消化器外科疾患（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓）だけでなく、気管・肺疾患、腎臓・膀胱などの泌尿器疾患、卵巣疾患、陰部異常、臍の異常、鼠径ヘルニア・陰嚢水腫、睾丸異常（停留睾丸、移動性精巣、精巣捻転）などの外科疾患を中心に治療を行っています。また、便秘や、潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患などの小児消化器疾患も専門としています。

本院では、2018年11月1日より当院に小児外科が標榜され、2019年1月1日より日本小児外科学会教育関連施設にも認定され、北勢地域の医療機関の先生方や三重大学医学部附属病院と密に連携を保ちつつ、お子さんとご家族にベストの小児外科・小児消化器病医療を提供することを心がけております。

本院では、お子さんの手術への不安軽減のため、手術前に看護師さんたちが訪問しコミュニケーションを行い、病室から手術室へ移動し麻酔がかかるまでタブレットでお好みの映像を視聴する取り組みをしています。また、入院が長くなってしまってお子さんの保護者の方には、有料での病院食提供を行い、入院環境を整える取り組みを行っています。

社会活動では、ショッピングモールや医師会、幼児教育センターなどで、「子どもに危険な消化管異物」の啓発活動を行っています。

### ◆主疾患と治療プロトコール

- ・鼠径ヘルニア（鼠径法と腹腔鏡のメリットデメリットを説明し施行）、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニアなど 入院期間 1泊2日
- ・虫垂炎 腹腔鏡補助下虫垂切除術（可能ならおへその中の傷だけ。）入院期間 3-7日
- ・全身麻酔下消化管内視鏡検査（小児の胃カメラ、大腸カメラともに可能です）  
入院期間 1泊2日（検査後の治療が必要ない場合）
- ・直腸肛門内圧検査（重症便秘症、ヒルシュスプルング病の鑑別）  
入院期間 日帰り入院（乳幼児では鎮静が必要です）
- ・その他、副耳、耳前瘻孔、消化管異物、頸部腫瘤・膿瘍、リンパ管腫、胃食道逆流症、胃軸捻転、上部消化管出血、肥厚性幽門狭窄症、中腸軸捻転、腸重積、メッケル憩室、腸管重複症、小腸捻転、腸閉塞、クローン病、潰瘍性大腸炎、若年性ポリープ、便秘症、内・外痔核、裂肛、肛門周囲膿瘍、肛門ポリープ、臍肉芽腫、臍腸管遺残、尿管管遺残、腹壁ヘルニア、包茎、水腎症、卵巣嚢腫、気管切開、胃瘻造設などの治療が可能です。
- ・疾患により三重大学病院と連携

◆手術症例の概要 手術内訳 2024年1月1日～12月31日

入院全身麻酔下手術名	例数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術（腹腔鏡）	7
鼠径ヘルニア根治術（鼠径切開法）	23
陰嚢水腫手術	10
精巣固定術	9
臍ヘルニア・臍形成術	8
腹腔鏡下虫垂炎手術	7
背面切開術	4
皮下腫瘍切除	2
耳前瘻孔手術	2
腹腔鏡下精巣摘出術	2
副耳摘出	1
側頸瘻摘出術	1
正中頸嚢胞摘出術	1
横隔膜ヘルニア手術	1
胃瘻造設術	1
肥厚性幽門狭窄症（Ramstedt）手術	1
腸捻転手術	1
卵巣腫瘍摘出	1
開腹腸重積整復術	1
全身麻酔膿瘍ドレナージ	1
直腸肛門脱手術	1
臍腸管遺残	1
内視鏡的食道胃異物除去	3
上部消化管内視鏡検査	10
	99

◆その他

当院が資格を有する当院の施設基準：

日本小児外科学会認定の教育関連施設\*

\*2019年より当院は日本小児外科学会より教育関連施設に認定されております。

日本小児外科学会認定の教育関連施設とは専門医育成のための専門研修施設群のひとつであり、小児外科専門医を目指す若手医師の修練の場として、患者様に安全で適切な医療を行うことができるよう心がけております。